

平成29年度学校自己評価シート

(私立 鹿児島情報高等学校)

目指す学校像	生徒が自律の心と明確な目的意識をもって自分の夢の実現に挑戦し、保護者や地域社会の期待と信頼に応える学校
スローガン	キミに「生きる力」
重点目標	1.安全で明るく楽しい充実した高校生活を送るための指導
	2.基本的な生活習慣とルール・マナーの定着指導
	3.学力定着と学年に応じた進路指導に取り組み、満足度の向上を計る
	4.資格取得や確かな知識・技術を習得させる指導

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

年度当初						最終評価		
部名	項目	現状	評価項目	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
保健安全部	1	インフルエンザが大流行した。その他の感染症罹患の生徒は減少した。 インフルエンザ欠席 270名 学級閉鎖 7クラス その他感染症 29名	・手洗いうがい・換気の大切さについて指導 ・感染症発生時期や発生時の迅速な情報提供と対応。	・泡石鹸や手指消毒の使用や換気を実践したか。 ・発生時に生徒・職員・保護者へ状況や対応策を伝えたか。	①泡石鹸・手指消毒の使用量測定 ②放送を利用し換気の推奨 ③職朝やほけんだよりでの情報提供	①各階で使用量の差があるが、手指消毒より石鹸の使用量が多かった。 ②③県や市の状況と合わせながらその都度全体へ報告できており、予防に努めることができた。	A A	全国的にインフルエンザが流行したが本校は学級閉鎖もなく昨年の1/3の罹患数で、予防意識が高まった。しかし、各階での泡石鹸の使用量の差も大きいため、声掛けや意識づけをさらに強化していく必要がある。
教育相談部	1	学校生活を楽しく過ごしている生徒が多くいる反面、集団に適應できずに悩んでいる生徒や登校状況がなかなか改善できない生徒も多い。	・コミュニケーションをスムーズにとれるための力を高める。 ・学級担任や学年部等との連携指導を充実する。	・HRIにおいて、人間関係づくりに取り組む工夫をする。 ・欠席等のきめ細かな把握に努め組織的・計画的な支援に努める。	①HRにおいて、人間関係づくりや改善の方法等について考える機会を多くもったか。 ②個々の欠席状況に応じた連携指導ができたか。	①楽しい学校生活を過ごしている生徒の割合が年々増えてきており、HRでの取り組みが良好である。 ②欠席状況の改善について生徒間での支え合いや励ましなどがあと一歩である。	A B	授業も形態もかわりつつあるが、そこに対してコミュニケーションをどういう具合に取らせるかなどの新しい課題解決に取り組みたい。人間関係のトラブルへの対応やコミュニケーションスキルの向上を図る指導をより充実する必要がある。
	2	生徒一人一人が自分の個性を生かしながら学校生活を送っているかは疑問である。	・学校生活に生きがいをもつて、自立心や向上心を自ら育ていけるように指導・支援する。 ・自信や自尊感情を高める。	・Q-Uテスト・エゴグラム・進路意識調査等から生徒を多面的に理解しながら生活の改善を図る。 ・個人やグループで活動する場を拡充して達成感や充実感を醸成する。	①教育相談で、生徒を多面的に理解し、生徒それぞれが改善点や目標をもてるようになったか。 ②係活動や行事等で協力・協働する場を積極的に設けたか。	①自分の個性・適性をよく把握して、それらを将来に向かって生かそうとしている生徒が学年が上がるとともに増えている。 ②学校生活での生徒の協力態勢は良好である。	A A	諸調査や検査の結果を活用したりして、教育相談の一層の充実を図り、自己理解に基づき自己肯定感を高めることから、お互いの多様性を認め合う態度を醸成する。
	3	ネット依存、睡眠不足や食生活の乱れなどにより、生活習慣のバランスを失いかけている現状がある。	・健全な余暇を過ごすことができる。 ・毎日のさわやかな起床と朝食を食べる習慣が身につくよう継続的な指導をする。	・HRで余暇の過ごし方や生活習慣の改善について考えさせる。 ・各家庭向けの啓発資料を作成・配布する。	①生徒の生活実態をアンケートで調査把握し、生活改善に生かしたか。 ②啓発用の資料『週刊 かわら版』を作成し配布できたか。	①アンケートなどにおいて生活実態について、保護者と教員の認識の違いがあるようである。 ②ややかわら版が保護者に届いていない傾向もある。	B B	生徒が余暇の善利用や睡眠・食事など、生活習慣の改善・充実に努めるような指導・援助に努める。『週刊 かわら版』などの便りを学級や家庭でもっと話題にする必要がある。保護者に届けられていないケースも多いので、HP上に公開していることをもっと広報していきたい。
指導部	2	登下校時の門礼、授業開始・終了時の挨拶、来校者への挨拶・礼法に個人差がある。	全生徒に目を向けた温度差のない積極的な声かけ指導の徹底。	・年間を通した礼法訓練とその場指導の徹底。 ・授業開始、終了時の挨拶徹底と繰り返しの指導。	①学校内外での挨拶は確立されているか。 ②授業開始・終了での礼法は確立されているか。	・学校内外での挨拶は良くなっている。 ・授業の挨拶・礼法に学級差・個人差がある。	B	・学級差、個人差が無いように繰り返し指導する ・学級ごとの礼法指導の実施

年 度 当 初						最 終 評 価		
部名	項目	現 状	評価項目	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
生活指導部	2	登下校(商業施設・自転車・市電・JR)のマナー違反で苦情がある。規範意識が薄い。	ルール及びマナーを厳守する定期的な指導。	・全校朝会・SHR等の集会を通して交通マナー・携帯電話利用マナー等について指導する。 ・校外巡視指導の実施。	③外部からの苦情はなかったか。 ④校外巡視で指導対象になるような生徒はいなかったか。	・登下校時の苦情・指導を受ける生徒は減少している。 ・下校途中に商業施設等に寄り道をして指導を受ける生徒がいる。	A	・継続的なモラル教育の充実 ・下校指導、校外指導の実施
	2	頭髪・服装容儀等で注意・指導を受ける生徒が見受けられる。その他、警告カードの指導対象者がいる。	SHR・終礼等での頭髪、服装容儀の徹底指導。	・見逃さないその場指導の徹底。	⑤服装容儀等での警告カードによる指導は減少したか。 ⑥頭髪等の身だしなみは適正にできているか。	・服装容疑等の指導対象者は減少している。良くなっている。	A	・全職員での温度差のないその場指導の徹底と継続 ・着こなしセミナーの継続実施
一年部	1	高校生としての自覚と自律に沿って、責任の意識が薄く、校則やマナー違反に対しての考えや反省の度合いが低い。	学級、学年、生活指導部の連携を確立し、情報生として「あるべき姿」の自覚と自律の意識は向上したか。	警告カードや早退・遅刻届の押印回りや頭髪検査を通し、学級、学年、指導部と連携し継続的かつ、徹底した指導を行う。	①素直に話を聞き入れるか。 ②高校生として自覚・自律に沿って責任ある行動が取れるようになったか。 ③身だしなみに改善が見受けられるか。	定期的な頭髪検査や、警告カードを活用した指導により問題行動は減少した。	A	継続して指導していけばもっと効果が上がると予想される。
	2	入学当初に実施したオリエンテーションの中で、礼法・挨拶訓練・集団行動訓練ならびに校歌練習の成果に持続性がない。	定期的に礼法・マナー・挨拶訓練・集団行動訓練及び校歌練習の成果が感じられるか。	学年朝会や学科朝会等で継続的に礼法・マナー・挨拶訓練並びに校歌練習を織り込んでいく。	①礼法・マナーが改善されたか。 ②心のこもった挨拶ができるようになったか。 ③大きな声で校歌を歌えるようになったか。	あいさつは、概ね良好であった。校歌は、歌詞を覚えていない生徒が多く、まだ大きな声で歌えているとは言い難い状況であった。	C	校歌を歌う機会をもっと設ける必要があり、生徒にも意識づけを行う。継続し回数をこなす事で、成果は出ると想定される。
	3	下校時、身の回りの確認が疎かになり、忘れ物があったり、机等の整列が出来ていない傾向がある。	棚の整理整頓や机の整列並びに、置き勉なしの意識の向上は感じられるか。	終礼時の呼びかけや、放課後等クラスの状況を把握し、違反生徒には警告カード等で妥協せず継続して指導を行う。	①自分の棚は常に整理整頓されているか。 ②机は下校時きちんと並べて下校しているか。 ③最後の確認が出来、置き勉はないか。	整理・整頓は定着しつつあるが、下校時の身の回りの確認不足による指導が未だ継続している状況である。入学当初に比べると格段に改善されている。	B	置き勉指導に於いては、妥協せず継続して指導していけばもっと効果が上がると予想される。身の回りの生理・整頓も同様に指導を継続していく。
二年部	1	自分の将来に対して、不安や心配を抱えている生徒が多い。	3年生に備え、将来の足掛かりを作る。	①キャリアガイダンスの有効活用を図る。 ②教師が親身になって進路指導に取り組む	①具体的な進路について考えるきっかけができたか。 ②将来の自分像を考えることができたか。 ③進路について保護者や教師に相談できたか	キャリアガイダンスやホームルームでの話等で、進路のきっかけづくりが出来たようである。	A	進路のきっかけづくりにとどまらず、次の一手への発展を計画したい。
	2	集団の中でのルールが順守できていなかったり、時間にルーズなところがある。	将来、必要とされるマナーをしっかり身に着ける。	①修学旅行等の学校行事を通じて集団行動でのルール順守を徹底させる。 ②警告カード等の指導を通じてマナーの向上を図る	①集合時間は守れたか。 ②修学旅行ではルールやマナーはしっかり守れたか ③警告カード等は1年時に比べ減少したか	遠足や修学旅行の準備等で、ルール順守の意識付けができたようである。	A	ルールのマナー順守の手本となれるような人材育成にも努めたい。
	2	昨年から清掃状況に差がみられる	全員で清掃に取り組む	①掃除時間に他の事(私語・歯磨き等)をしないようにする。 ②自ら進んで掃除を始める。	①清掃時間は掃除のみに集中できたか。 ②自ら進んで清掃用具を握ったか	一部の生徒ではまだ、清掃に対する真剣さが欠けていたようであるが、全般には上向ってきている。	B	清掃作業に対する意識付けをもっと簡潔に行いたい。
三年部	1	・遅刻や問題行動等で押印回りに来る生徒の礼法や頭髪・服装容儀がしっかりできていない。また、反省点や今後の改善策等についてしっかりと答えられず、形式的に終わらそうとする生徒が多い。	・遅刻・警告カード等の押印回りの最初の段階で、礼法の仕方や頭髪・服装容儀等を含めた担任による適切な指導がなされていたか。	・学年主任の押印段階で、基本的な礼法及び頭髪・服装容儀等に問題のある生徒は、再度担任による指導を行う。	① 礼法および身だしなみがしっかりとできるようになったか。 ②反省すべき点を十分に理解し、改善に繋げる策をしっかりと導き出しているか。 ③押印回りで、教育的に意義あるものとして生徒に感じられたか。	3年部教職員によるばらつきのない指導と家庭との密な連携により、従来形式的に処理されがちであった押印回りの過程が、生徒にとって教育的に意義深いものとなった。また、進路決定の年でもあり、最終学年としての自覚の芽生えと成長も感じられた。	A	今後は、各学年との連携を図ることで学年間の指導のばらつきをなくし、押印回り等の機会が3年間を通し教育的かつ系統的に意義深いものとなるような取り組みを更に進めていく必要性を感じる。

年 度 当 初						最 終 評 価		
部名	項目	現 状	評価項目	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
三年部	1	礼儀、礼節、挨拶の励行が受動的になりやすく、自発的に達していない。	進路指導に関わる取り組み及び各種行事に合わせ、自発的な挨拶の励行を促進させ、能動的な礼儀、礼節を身につけさせる。	進路指導に関わる取り組み及び各種行事の中に、礼儀、礼節、挨拶の励行を能動的かつ自発的に促進させる指導を織り込む。	④自ら進んで気持ちのよい挨拶ができるか。 ⑤日ごろに行動に礼儀・礼節が感じられるか。	1年時から学校全体で取り組んできた礼法指導の成果として、少なからず生徒達の意識の中に「しっかりせねば」といった気持ちが浸透し始めてきた感じがする。そういった意味でも能動的な礼儀・礼節・挨拶の自発的励行に近づきつつあることが確認できた。	A	挨拶をしようという気持ちはあっても自ら先に挨拶をすることのできない生徒達もいるのが現実で、自発的・能動的な励行を促すためには、更なる職員から声かけや挨拶をする心がけが必要かと思われる。
	3	進路決定後の気の緩みが、学習意欲の低下や頭髮・服装容儀等の乱れに繋がっている傾向がある。	進路決定から卒業までの取り組みが、新たな進路先で求められるであろう知識や人間的成長に繋がっているか。	進路決定後は、キャリアプランニングの視点で、新たな進路先で求められるであろう知識の習得や人間的成長に繋がる取り組みをさせる。	①進路決定後も、意欲を持って学習に専念しているか。 ②進路先で活かせる知識習得に、目標と計画性を持って取り組んでいるか。	1年時からのキャリアプログラムの導入が功を奏し、大半の生徒が進路先への移行期間を充実させることができていると思われ。しかし、一部の生徒達は、進路選択を段階的に移行させる内容を見出すのに困難を要し、教員による個別ガイダンスといった側面支援を必要とした。	A	キャリアプログラムの一環として、進路が決定した生徒に対して、個々による今後のキャリアプランニング並びに移行準備の具体化が組み込まれていたが、一部の生徒達には、教員によるガイダンスといった側面支援が今後も必要である。
進路指導部	1	進路実現に対しての生徒の意識が十分とは言えない。意識の向上が望まれる。	日頃の挨拶身なりや全校朝礼や学年朝礼など様々な集会等における「聞く態度」等の向上	授業はもとより様々な場面でのあいさつの励行 来校者等への自然な挨拶励行	①様々な場面での適切な挨拶の励行 ②授業態度の改善 ③来校者等への自然な挨拶・会釈の励行	①、③は、以前に比べ改善されたが、まだ不十分。 ②授業中における居眠りや携帯電話使用等指導が不十分。	B	①③は以前に比べて改善されているが十分とは言えない。②については十分とは言えない。学習への積極的姿勢がまだまだではと思われる。
	2	1年生での「自分を知る」2年生での「仕事や学部学科等を調べる」3年生での「進路実現」を目指すべく、生徒間の切磋琢磨を促す	キャリア教育プログラムのさらなる充実と生徒・保護者との情報の共有化	保護者会や学年会等での情報提供をする。進路ガイダンスやオープンキャンパス等への参加を促す	①生徒・職員（特に学級担任）とのコミュニケーション ②生徒の積極的な情報収集 ③ガイダンスや進学就職に関する行事への参加	①まだまだ担任とのコミュニケーションが充分とは言えない場面が散見される。 ③例年に比べガイダンス等への参加が少なかったが、オープンキャンパスの参加者は増加した。	B	3年になってからではなく、早い段階での進路(進学・就職等)の情報収集や担任等との情報交換と願う。ガイダンスやオープンキャンパス等への参加が増えることを望む。
資格指導	1	各学科での取得目標の認識不足や、資格取得に対する意欲に差が表れている。	年度当初、目標設定を行い、資格取得によって得られる効果を認識しているか。	・資格を考える1時間を設定し、すべての生徒が、目標設定を行う。	①今年度の、取得目標を立てたか。 ②目標へ向け、どのような取組をしたか。	資格を考える時間の設定により、目標を設定すること、振り返りの時間の活用にて、各学期の反省と、次の目標設定ができてきている。	B	資格取得の目標の設定はできているが、そのための予習・復習が不十分である。目標達成のためにしなければならないことを周知させる。
	2	生徒自身が、自分がどのような資格を持っているのか、曖昧な生徒がいる。	・各学期ごとにクラスへ配布する資格取得状況の確認。 ・各学期に出る通知表に記載されている項目の確認。	・資格取得時の、合格証書や認定書の保管や管理。 ・各学期ごとの通知表の確認。	①自分の取得した資格を理解しているか。 ②通知表を各学期確認しているか。	各学期末の振り返りの時間や、通知表で、自分の資格取得の状況を把握することで、やれば出来る意識の向上が図られた。	A	授業以外での資格取得の取組が不十分な部分の改善。プリント類の配布で、予習や復習を目指す。
特別活動部	1	学校行事の精選と実施時期は適切か。	学校行事の実施上の問題点の把握とその解決策並びに地域への貢献	学校行事を精選する 学校行事の案内と参加を促す指導	①行事予定表を見て生活する習慣が身に付いているか ②学校行事に積極的に参加しているか	生徒会本部役員による掲示板活用の成果があり、学校行事への関心が深まっている。	A	教室や廊下などの掲示スペースをうまく活用する。
	2	部活動活性化を動めているが全体的に入部率が低い。	進路指導部との連携を図り部活動の経験が就職試験に有利になることなどを生徒に浸透させているか	部や同好会への入会を勧め、放課後の有効活用を勧める。施設充実を図る。	①部員数を増やすための方策を講じているか ②部活動活躍のニュースを取り上げて話題にしているか	学校HPやSHR時に生徒の活躍を紹介しているが、全体的には低い。	B	新入生への部活動紹介を充実させる。紹介の方法を工夫する。
	3	生徒会活動(総会・文化祭・体育祭)に興味関心が薄い生徒がいる	生徒会役員を中心とした活動に興味関心を高めるように指導をしているか	生徒会活動に対して全職員・生徒が興味関心を持つ。またLHR等で学級役員・専門委員の活動を積極的に行うよう指導する	①LHR等で行事への積極的な取り組みを指導しているか	生徒会本部役員による掲示板活用の成果があり、学校行事への関心が深まっている。	A	教室や廊下などの掲示スペースをうまく活用する。